

第一講座 エントリーシート  
万物の根源を考える

[主要推奨文献]

[1あ]内山勝利編集責任 『哲学の歴史1 哲学誕生』 中央公論新社

レポート①用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
1-1	<p>◎ミレトス学派の宇宙論 講義録項目&lt;1A&gt;に関連 タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネス等の初期の哲学者たちは宇宙の説明原理としてどのような根源(アルケー)を想定したか。初期哲学者の宇宙の説明は、従来の神話による説明とどういう点で違うか。 推奨文献関連箇所[1あ] p67-92</p>
1-2	<p>◎ヘラクレイトスの「ロゴス」 講義録項目&lt;1B&gt;に関連 ヘラクレイトスが、宇宙一切を成立させているものとして考えた「ロゴス」は、どのような意味合いをもち、それを知ることが我々にとっていかなる意義をもつか。推奨文献関連箇所[1あ]p112-123</p>
1-3	<p>◎ピタゴラス学派の「魂の浄め」 講義録項目&lt;1D&gt;に関連 ピタゴラス学派にとって「魂の浄め」とはいかなることで、どのような方法によって可能となるのか。推奨文献関連箇所[1あ] p100-111</p>

↑レポート①タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：1-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[1あ]等の仕方で表示できます。

第二講座 エントリーシート  
 [本講座]エレア派と古代原子論  
 [プラス講座]エンペドクレスとアナクサゴラス

[主要推奨文献]

[2あ]内山勝利編集責任 『哲学の歴史1 哲学誕生』 中央公論新社

レポート①用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
2-1	◎エレア派の考える「真に存在するもの」 講義録項目<2A>に関連 パルメニデスやゼノンが考える「真に存在するもの」はどのような意味合いをもつものであるか。 推奨文献関連箇所[2あ]p143-163
2-2	◎ゼノンが提示する「アキレスと亀のパラドクス」 講義録項目<2B>に関連 足の速いアキレスが遅い亀に永久に追いつけない、という説明がいかになされているか。また、その説明は何を前提として成り立っているのか。 推奨文献関連箇所[2あ]p163-170
2-3	◎原子論者による生成、運動の説明 講義録項目<2C>に関連 デモクリトスら原子論者が、自然界の生成や運動を説明するうえで想定した原子論のモデルとはいかなるものであるか。 推奨文献関連箇所[2あ]p216-232
2-4	◎エンペドクレスの「愛」と「憎しみ」 講義録項目<2D>に関連 エンペドクレスは、「愛」と「憎しみ」という原理を用いて、宇宙の生成をどのように説明したか。 推奨文献関連箇所[2あ]p177-190
2-5	◎アナクサゴラスの「知性」 講義録項目<2E>に関連 アナクサゴラスは「知性」という原理を用いて、宇宙の生成をいかに説明したか。 推奨文献関連箇所[2あ]p190-201

↑レポート①タスク[あ]には、自分が選択したテーマの**赤枠内の整理番号**(例：2-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[2あ]等の仕方で表示できます。

第三講座 エントリーシート  
 [本講座]正義をめぐるソクラテス対トラシュマコス  
 [プラス講座]プラトンの教育論

[主要推奨文献]

- [3あ]内山勝利編集責任 『哲学の歴史1 哲学誕生』 中央公論新社  
 [3い]プラトン著 久保努訳 『ソクラテスの弁明 クリトン』 岩波文庫  
 [3う] プラトン著 藤沢令夫訳『国家(上)』 岩波文庫  
 [3え]プラトン著 藤沢令夫訳『国家(下)』 岩波文庫

レポート①用選択テーマ	
テーマ 整理番号	テーマ内容
3-1	◎ソフィストが重視する言論や生き方 講義録項目<3A>に関連 ソフィストはどのようなことを教える者たちで、彼らが重視していた言論や生き方はどのようなものであるか。 推奨文献関連箇所[3あ]p245-302
3-2	◎ソクラテスの「無知の知」 講義録項目<3B>に関連 ソクラテスはどいついきさつで「無知の知」に至ったか。また、「無知の知」の内容は？ 推奨文献関連箇所[3あ]p331-338
3-3	◎◎「正義」をめぐる対話 講義録項目<3C>に関連 正義をめぐる対話で、トラシュマコスが当初の意見を維持できなくなったのはソクラテスのどのような対話の進め方によるものか？ 推奨文献関連箇所[3う]p43-99
3-4	◎ソクラテスの死刑 講義録項目<3D>に関連 ソクラテスが死刑になったいきさつと、死刑を前にしてソクラテスが見せた姿とは？ 推奨文献関連箇所[3あ]p358-362 [3い]全般
3-5	◎プラトンの教育論 講義録項目<3E>に関連 プラトンが魂の教育の重要性を考えたのはなぜで、教育にあたりどのような方法をとろうとしたか？ 推奨文献関連箇所[3あ]p421-426 [3え]p153-165

↑レポート①タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：3-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[3あ]等の仕方で表示できます。(プラトンの著作については岩波文庫以外の版を用いても構いません。)

第四講座 エントリーシート  
 [本講座]アリストテレスの目的論的自然観  
 [プラス講座]プラトンのイデア論

[主要推奨文献]

- [4あ]内山勝利編集責任 『哲学の歴史1 哲学誕生』 中央公論新社  
 [4い]アリストテレス著 朴一功訳『ニコマコス倫理学』 京都大学学術出版会  
 [4う]藤沢令夫著『プラトンの哲学』 岩波新書

レポート①用選択テーマ	
テーマ 整理番号	テーマ内容
4-1	◎アリストテレスによる「動の四原因説」 講義録項目[4A][4B]に関連 アリストテレスが考えた動の四原因とはいかなる内容をもつものか。関連する概念である形相と質料、可能(態)と現実(態)の内容や、動の第一原因として考えられた「不動の動者」について書いてもいい。 推奨文献関連箇所[4あ]p570-578
4-2	◎人間の(自然)本性とポリス 講義録項目[4C][4D]に関連 アリストテレスはポリス(都市国家)の形成に人間の本性がどのように関わっていると説明しているか。また、人間の自然本性にかなった国家の体制はどのようなものであると考えているか？ 推奨文献関連箇所[4あ]p633-638
4-3	◎アリストテレスの「友愛」 講義録項目[4E]に関連 アリストテレスが言う「友愛」はいかなるもので、社会のなかで生きる人間にとっていかなる重要性をもつものであるか？ 推奨文献関連箇所[4い]p354-400(第八巻)
4-4	◎プラトンのイデア論 講義録項目[4F]に関連 プラトンはイデアというのをどのようなものと考え、それによってわれわれの魂はどのように本来のあり方を発揮するとしたか？ 推奨文献関連箇所[4あ]p457-483 [4う]p69-150

↑レポート①タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：4-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[4あ]等の仕方で表示できます。(アリストテレスの『ニコマコス倫理学』については京都大学学術出版会以外の版を用いても構いません。)

第六講座 エントリーシート  
 [本講座]エピクロスとストア派の自然観  
 [プラス講座]ローマのストア派

[主要推奨文献]

[6あ]内山勝利編集責任 『哲学の歴史2 帝国と賢者』 中央公論新社

[6い]ディオゲネス・ラエルティオス※著 加来彰俊訳

↓ 『ギリシア哲学者列伝』 岩波文庫

※この著者「ディオゲネス」は講義でとりあげた「犬儒派のディオゲネス」とは別人です。

[6う]マルクス・アウレリウス著 神谷恵美子訳 『自省録』 岩波文庫

[6え]エピクテトス著 鹿野治助訳 『人生談義(上・下)』 岩波文庫

レポート②用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
6-1	◎エピクロスの原子論 講義録項目<6A>に関連 エピクロスは、宇宙の成り立ちを原子だけで説明できるとする。その原子論的説明の内容または、宇宙の秩序についての考えはどのようなものであるか。推奨文献関連箇所[6あ]p87-102
6-2	◎エピクロスによる快樂の価値づけ 講義録項目<6B~C>に関連 エピクロスは「快苦の感覚を知る」ということをどのように位置づけたか。また、快樂の種類分けをどのように考えたか。推奨文献関連箇所[6あ]p70-76
6-3	◎「(シノペの)犬儒派ディオゲネス」の人間像 講義録項目<6D>に関連 犬儒派の哲学者ディオゲネスはどのような生き方をした人で、思想信条はいかなるものであったか。 推奨文献関連箇所[6い]p127-182
6-4	◎ストア派の「自然に従って生きよ」 講義録項目<6E~F>に関連 ストア派の説く「自然に従って生きよ」はいかなる生き方であるか。また、どのようなありかたを「幸福」だと考えたか。推奨文献関連箇所[6あ]p157-174
6-5	◎ローマのストア派の名言と人生観 講義録項目<6I>に関連 マルクス・アウレリウスまたはエピクテトスはどのような名言を残し、それはいかなる人生観を示唆するものであるか。推奨文献[6う][6え]

↑レポート②タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：6-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[6あ]等の仕方で表示できます。

第七講座 エントリーシート

[本講座]プロティノスの宇宙観 —プラトン主義者として—

[プラス講座]ヨーロッパ世界におけるキリスト教

[主要推奨文献]

- [7あ]内山勝利編集責任 『哲学の歴史2 帝国と賢者』 中央公論新社
- [7い]武藤一雄 平石善司編 『キリスト教を学ぶ人のために』 世界思想社
- [7う]水地宗明他編 『新プラトン主義を学ぶ人たちのために』 世界思想社
- [7え]田中美知太郎責任編集  
『世界の名著 15 プロティノス ポルピュリオス プロクロス』 中央公論社

レポート②用選択テーマ	
テーマ 整理番号	テーマ内容
7-1	◎プロティノスの「三つの原理」 講義録項目[7B]に関連 プロティノスの考える「三つの原理」とは何で、それぞれがどのように関わり合いながら宇宙の秩序が展開しているとするのか。 推奨文献関連箇所[7あ]p539-553 [7う]p59-93 [7え]収録作品「三つの原理的なもの(第Ⅴ論集第一論文)」
7-2	◎プロティノスの「知性、一者に向ける努力」 講義録項目[7C][7D]に関連 プロティノスはわれわれの魂をいかに上位のもの(知性、一者)にどのように向けるべきだと考えているのか。 推奨文献関連箇所[7あ]p529-538 [7う]p59-93 [7え]収録作品「三つの原理的なもの(第Ⅴ論集第一論文)」 「善なるもの一なるもの(第ⅤⅠ論集第九論文)」
7-3	◎プロティノスの人間観 講義録項目[7E][7F]に関連 プロティノスは身体をもつ個別者としての人間がいかに生きることが自由、幸福であると考えたか。宇宙観にふれてもよい。 推奨文献関連箇所[7う]p94-115 [7え]収録作品「幸福について(第Ⅰ論集第四論文)」 「グノーシス派に対して(第Ⅱ論集第九論文)」
7-4	◎古代キリスト教(四世紀頃まで)の波紋 講義録項目[7H][7I]に関連 イエスの生涯が教えに帰依する人達の心にどのような信をもたらしたか。またキリスト教はイエスの死後、どのようにローマ世界に波及したか。 推奨文献関連箇所[7い]p57-68, p58-61

↑レポート②タスク[あ]には、自分が選択したテーマの**赤枠内の整理番号**(例：7-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[7あ]等の仕方で表示できます。(プロティノスの著作については中央公論社の全四巻の『プロティノス全集』や他の版を用いても構いません。)

[参考]『プロティノス全集(全四巻)』への主要作品の収録巻

「三つの原理的なもの(第Ⅴ論集第一論文)」→第三巻に収録。

「善なるもの一なるもの(第ⅤⅠ論集第九論文)」→第四巻に収録。

「幸福について(第Ⅰ論集第四論文)」→第一巻に収録。

「グノーシス派に対して(第Ⅱ論集第九論文)」→第二巻に収録。

第九講座 エントリーシート  
 [本講座]哲学と宗教 —フィチーノ—  
 [プラス講座]中世におけるイスラム教

[主要推奨文献]

- [9あ] アウグスティヌス著 服部英次郎 藤本雄三訳『神の国(五)』 岩波文庫  
 [9い] 伊藤博明著 『神々の再生』 東京書籍  
 [9う] タラム・アンサーリー著 小沢千重子訳 『イスラームから見た「世界史」』  
 紀伊國屋書店

レポート②用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
9-1	◎アウグスティヌスが説く「神の愛」 講義録項目[9B]に関連 アウグスティヌスは神の愛をどのようなものと考え、イエスに帰依するものはいかなる信仰をもつべきであるとしたか。 推奨文献関連箇所[9あ]p367-496(第二十二巻)
9-2	◎フィチーノによる「哲学と宗教」 講義録項目[9D]に関連 フィチーノは哲学と宗教とをいかなる関係を保つべきものであると考えたか。 推奨文献関連箇所[9い]p82-123
9-3	◎フィチーノの自然観 講義録項目[9E][9F]に関連 フィチーノは自然がいかなる力をもつものと考え、神と結びつけたか。愛や魔術に関連づけて書いてもいい。 推奨文献関連箇所[9い]p82-123
9-4	◎ムハンマドが説いた教え 講義録項目[9G][9H]に関連 イスラム教えの開祖ムハンマドの説く教えはどのようなものか。また彼の教えは後継者アルー・バグルおよびそれに続くウマルにどのように引き継がれ発展をみたか。 推奨文献関連箇所[9う]p61-122

↑レポート②タスク[あ]には、自分が選択したテーマの**赤枠内の整理番号**(例：9-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[9あ]等の仕方で表示できます。(アウグスティヌスの著作については他の訳者や出版社によるものを用いても構いません。)

第十講座 エントリーシート  
 [本講座]デカルトの真理観  
 [プラス講座]デカルトが説く理性と情念

[主要推奨文献]

- [10あ]デカルト著 落合太郎訳 『方法序説』 岩波文庫  
 [10い] デカルト著 桂寿一訳 『哲学原理』 岩波文庫  
 [10う] 野田又夫著 『デカルト』 岩波新書  
 [10え] 吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波新書

レポート③用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
10-1	◎中世ヨーロッパ(12~17世紀)大学の成立と推移 講義録項目[10A, B]に関連 イタリアのボローニャ大学をはじめ、12世紀以降にヨーロッパで「大学(学生 団)」が成立した経緯、またその後の学部組織や教育内容がどのように推移し たか。 推奨文献関連箇所[10え]p24-78
10-2	◎デカルトの「知恵の木」 講義録項目[10D]に関連 デカルトの「知恵の木」では学問の目的や学ぶ順序がどのように考えられて いるか。 推奨文献関連箇所[10い]p22-24 [10う]p55-61
10-3	◎デカルトの「仮の道徳」 講義録項目[10E]に関連 デカルトがなぜ「仮の道徳」が必要だと考え、その内容はいかなるものであつ たか。 推奨文献関連箇所[10あ]p34-43 [10う]p78-86
10-4	◎デカルトの「方法的懐疑」と「考える我」 講義録項目[10F~G]に関連 デカルトの「方法的懐疑」とはいかなる探求姿勢であり、それによってなぜ 「我思うゆえに我あり」という真理を見いだせたのか。 推奨文献関連箇所[10あ]p44-45 [10う]p87-106
10-5	◎デカルトの真理探究 講義録項目[10H~I]に関連 「我思うゆえに我あり」からさらに進んで、デカルトはどのような方針にもと づき真理探究を継続したか。また真理認識が「自由」に結びつくとしたが、そ れはいかなる意味であるか。 推奨文献関連箇所[10う]p114-123, 163-177

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの**赤枠内の整理番号**(例: 10-3)を  
明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号  
を用いて[10あ]等の仕方で表示できます。(デカルトの著作については岩波文庫以外  
の版を用いても構いません。)



第十一講座 エントリーシート  
 理性的存在としての人間 —カント—

[主要推奨文献]

- [11あ]カント著 篠田英雄訳 『道徳形而上学原論』 岩波文庫  
 [11い] 宇都宮芳明著 『カントの啓蒙精神』 岩波書店  
 [11う] 吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波新書

レポート③用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
11-1	◎カントの「行為の道徳的価値」講義録項目[11B]に関連 カントは「行為の道徳的価値」をどのように考えたか。「意志」や「義務」に関連づけて記述しよう。推奨文献関連箇所[11あ]p22-50 [11い]p91-124
11-2	◎カントの「定言命法」講義録項目[11C][11D]に関連 カントの「定言命法」は「仮言命法」とどこが違うか。また、カントが定言命法としてあげたもの(根本方式や人格尊重など)の内容はいかなるものか。 推奨文献関連箇所[11あ]p85-103 [11い] p91-124
11-3	◎カントの「完全義務と不完全義務」講義録項目[11E]に関連 カントは「完全義務」「不完全義務」というものをどのように説明しているか。 推奨文献関連箇所[11う]p104-107
11-4	◎カントの大学論 講義録項目[11F]に関連 カントは大学における哲学部の役割を提言したが、それは大学にとって何を必要と考えていたからか。推奨文献関連箇所[11う]p81-87

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：11-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[11あ]等の仕方に表示できます。(カントの著作については別の訳者や出版社の版を用いても構いません。)

第十三講座 エントリーシート

[本講座]唯物論的自然観 —エルヴェシウスとマルクス—

[プラス講座①]ニーチェと永劫回帰

[プラス講座②]カントの平和論

[主要推奨文献]

[13あ]宗像恵・中岡成文編著 『西洋哲学史 近代編』 ミネルヴァ書房

[13い]小宮彰著 『ディドロとルソー 言語と《時》 十八世紀思想の可能性』  
思文閣出版

[13う]長谷川宏著 『初期マルクスを読む』 岩波書店

[13え]ニーチェ著 阿部六郎訳 『この人を見よ』 新潮文庫

[13お]カント著 池内紀訳 『永遠平和のために』 集英社

レポート③用選択テーマ	
テーマ 整理番号	テーマ内容
13-1	◎ロックの経験論 講義録項目[13B]に関連 ロックの経験論とはいかなる内容をもつもので、ロックが「唯物論者」とは言 われないのはなぜか。推奨文献関連箇所[13あ]p88-94
13-2	◎エルヴェシウスの感覚重視の唯物論 講義録項目[13C][13D]に関連 エルヴェシウスは、道徳判断を含む一切の判断が、感覚をもとに成り立つと するが、その説明はどのような内容のものか。 推奨文献関連箇所[13あ]p131-136 [13い]p42-66
13-3	◎マルクスの労働観 講義録項目[13F][13G]に関連 マルクスは労働の意義をどのように考えたか。また「労働の疎外」とはどのよ うなもので、疎外から解放されるには何が必要だと考えたか。 推奨文献関連箇所[13う]p57-122
13-4	◎ニーチェの永劫回帰 講義録項目[13H][13I]に関連 ニーチェの「永劫回帰の肯定」にはどのような人間観、世界観が根底にある か。彼は「永劫回帰」を通じて何を訴えようとしているのか。 推奨文献関連箇所[13あ]p281-283 [13え]p114-123(「悲劇の誕生」の項)
13-5	◎カントの平和論 講義録項目[13J][13K]に関連 カントは「戦争」というものを、他人をどのように扱うことから生じると考え ているか。また、戦争を防ぐためにいかなる提案をしているか。 推奨文献関連箇所[13お]全般

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：13-3)を  
明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号  
を用いて[13あ]等の仕方に表示できます。(ニーチェおよびカントの著作については  
他の訳者や出版社の版を用いても構いません。)

第十四講座 エントリーシート  
「物語の主体」としての自己 —マッキンタイア—

【主要推奨文献】

- [14あ] マッキンタイア著 篠崎榮訳 『美德なき時代』 みすず書房  
[14い] マイケル・サンデル著 鬼澤忍訳 『これからの正義の話をしよう』 早川書房

レポート③用選択テーマ	
テーマ 整理番号	テーマ内容
14-1	◎マッキンタイアの「徳倫理学」について 講義録項目[14C]に関連 マッキンタイアの「徳倫理学」は何をめざすものであるか。また、彼はアリストテレスの「友愛」をどう評価したか。 推奨文献関連箇所[14あ]p179-201 [14い] p270-314
14-2	◎「行為の理解可能性」について 講義録項目[14D][14E]に関連 マッキンタイアは、「行為の理解可能性」をどういう点においたか。また、それに関連して行為が「物語的な歴史」に結びつけられるのはどういう点か。 推奨文献関連箇所[14あ]p250-276 [14い] p270-314
14-3	◎「物語の主体」として善く生きる 講義録項目[14F][14G]に関連 マッキンタイアが自己を「物語の主体」とみなす考えでは、「私」が生きること はどのようにとらえられていて、またどのように生きるのが善い生き方だとされるのか。 推奨文献関連箇所[14あ]p250-276 [14い] p270-314

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの**赤枠内の整理番号**(例：14-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[14あ]等の仕方で表示できます。